

世界遺産観光英語のe-learningブレンド学習用教材の開発(1) — 研究の背景と学生へのアンケート調査結果 —

山内ひさ子, 小田まり子*, 河又貴洋, Joel HENSLEY,

Developing Multimedia English for Tourism E-learning Materials on UNESCO
World Heritage Sites (1): Research Background and Questionnaire Results

Hisako YAMAUCHI, Mariko ODA*, Takahiro KAWAMATA and Joel HENSLEY

Abstract

Of the 25 sites added to the UNESCO World Heritage List on June 28, 2011, two are located in Japan. The Japanese Agency of Cultural Affairs has also submitted the "Churches and Christian Sites in Nagasaki," which are now on the tentative list of sites. These efforts related to World Heritage Sites both in- and outside of Japan have caused Japanese university students to pay attention to such sites, which in turn promotes interest in English learning. The purpose of this paper is to describe the background situation of the development of multimedia English for tourism e-learning materials concerning UNESCO World Heritage Sites as well as report the results of a questionnaire concerning the same topic administered to 271 students at the University of Nagasaki, Siebold.

Keywords: ESP, English for Tourism, UNESCO World Heritage, e-learning, Blended learning

1. はじめに

2011年6月28日にUNESCOは新たに25ヶ所を世界遺産リスト(World Heritage List)へ登録を決定し,世界中で世界遺産として登録されている場所は,あわせて936ヶ所となった。日本における世界遺産は,今年に新たに2ヶ所が登録されたため,全部で16ヶ所となり,そのうち,12ヶ所が文化遺産,4ヶ所が自然遺産に登録されている。長崎県は県内のキリスト教会群を世界文化遺産への登録を目指しており,2007年に文化庁を通して,登録審査の申請を行った。このような状況の中で,長崎県立大学国際情報学部の学生の英語学習のために,世界遺産観光英語マルチメディアe-learning教材を開発することは,単に専門分野の習得にかかわりのあるESP(English for Specific Purposes)教育のためばかりではなく,卒業後,観光産業に就職を希望する学生にとっては,就業支援の教育の一環としての学習教材としての意味も大きい。また,難易レベルの異な

*久留米工業大学,工学部,情報ネットワーク工学科講師

る教材を作成することにより、他の学部や他の大学の学生対象の英語学習教材として汎用性のある教材にすることができる。

このような観点から筆者らは「世界遺産観光英語のe-learningブレンド学習用教材の開発と授業効果の分析(課題番号:23520690)」というテーマの研究へ、2011年度から3年間計画の科研費の補助を受け、世界遺産観光英語のマルチメディアe-learning教材開発を進めている。この研究では、平成20~22年度に実施した科研費補助研究(課題番号20520509「通訳観光ガイド英語マルチメディアCALL教材開発とブレンド学習の研究」)の成果をさらに発展させるものであり、e-learning教材開発には、ブレンド学習(Blended Learning)の理論、e-learningと対面授業(face-to-face)の授業の効果的授業理論を踏まえ学習支援システムであるQAWAIIを利用して進めることにしている¹。この論文では、国内における世界遺産に対する今日の動向と、2011年6月上旬に行った長崎県立大学シーボルト校の学生の世界遺産についての意識調査の結果を報告し、開発する教材の方向性について論じる。

2. 世界遺産に関する状況

2011年6月28日付けのユネスコ世界遺産会議(World Heritage Convention)のニュースには図1に示す記述がある²。新たに25カ所の世界遺産が登録され、現在の世界遺産登録数は文化遺産が725カ所、自然遺産が181カ所、複合遺産が28カ所、合わせて936カ所となった。歴史を振り返ると、1972年に世界遺産条約がユネスコ総会で成立した後、1975年に正式に発効され、1978年に自然遺産4件と文化遺産8件の、合わせて12件が初めて世界遺産のリストに登録された。日本は1992年に「世界遺産条約」を批准するに至り、1993年に初めて文化遺産として「法隆寺地域の仏教建造物」と「姫路城」の2カ所が自然遺産として「白神山地」と「屋久島」の4カ所が世界遺産のリストに登録された。

今年、新たに「小笠原諸島」、「平泉 - 仏国土(浄土)を表わす建築・庭園および考古学的遺跡群」の2カ所がリストに加えられ、現在、国内の世界遺産は、自然遺産が4カ所、文化遺産が12カ所の合計16カ所が正式に登録されている。

Twenty-five new properties inscribed on UNESCO's World Heritage List which now numbers 936

Tuesday, June 28, 2011

The World Heritage Committee has inscribed a total of 25 sites on UNESCO's World Heritage List including three natural properties, 21 cultural and one mixed site. Two properties were added to the World Heritage List in Danger and one was removed from the list. The World Heritage list now numbers 936 properties: 181 natural sites, 725 cultural, and 28 mixed.

図1. UNESCOの世界遺産登録ニュースより

長崎県は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」という資産名称で県内のキリスト教関係の文化財を世界文化遺産として登録するための働きかけを行い、これは2007年に文化庁を通して「世界遺産暫定一覧表」(Properties submitted on the Tentative List)に登録された。図2はユネスコ世界遺産の暫定リストに掲載されている遺産の概要である³。

Christianity was introduced in Japan by Jesuit missionary Francis Xavier in 1549 and spread rapidly in the western part of the nation. The Jesuits established their mission base in Nagasaki, where a part of foreign trade with Portugal was developed. The city of Nagasaki played an important role as a key base for the missionary work in Japan. Churches and Christian culture flourished here, and the Young Delegates of Thensho sett off from Nagasaki in 1582 for Europe, where they had an audience with the Pope. Their visit conveyed a fact that Christianity had taken root in Japan. However, with the Tokugawa shogunate's anti-Christian policy which banned the religion, Christianity was severely suppressed, resulting in the revolt against the regime (Shimabara Uprising) in 1637. Christian historic sites that tell of this period of suppression have been preserved until today. (中略) These churches are also considered as excellent examples of the quality structural design resulting from the fusion of the Western architectural techniques brought to the foreign priests and Japan's traditional architectural techniques. The churches form particular cultural landscapes, associated with distinctive natural settings surrounding them.

図2 . 世界遺産暫定リスト掲載の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の概要

このようにキリスト教伝来から弾圧の歴史の後、明治時代に建造された教会群が文化的にも、建築様式としても高い価値があることが強調されている。これに対して世界遺産委員会では、すでに政界遺産に登録されているチリのチリオ教会群、中国のマカオ歴史中心街や、暫定リストに掲載されているハンガリーの北カルパチアン盆地の木造教会群に劣らない文化価値があり、特にキリスト教の復活という点でユニークであるという評価がなされている⁴。

日本の世界遺産登録の状況や長崎県の文化遺産の世界遺産登録への動きは、日本の一般の国民の関心事であるばかりではなく、長崎県人にとっても関心があり、当然のことながら、長崎県立大学国際情報学部の学生にとっても無関心ではいられないものである。

3 . 日本の観光事情と観光政策

日本は観光立国を目指しており、平成2007年1月に「観光立国推進基本法」の施行が始まり、それに基づく「観光立国推進基本計画」が策定され、平成22年度までに 訪日外国人旅行者を1,000万人にすること、 国内で開催される国際会議の件数を5割以上増やすこと、日本人の国内観光旅行による一人当たりの宿泊数を4泊にすること、日本人の海外旅行者数を2,000万人に増やすこと、 国内の旅行環境の整備や観光産業の生産性の向上を図ることなどにより、国内における観光旅行消費額を22年度までに30兆円にすることなどの目標を立てた⁵。

さらに、平成2009年12月には「訪日外国人3,000万人へのロードマップ」という成長戦略の政策も打ち出したが、SARSや新型インフルエンザの流行、リーマンショックなどの伝染病の流行や世界経済の動向により、計画どおりに進んではない。図3は2003年から2010年まで日本を訪れた外国人旅行者の推移を示したものである⁶。さらに、本年3月11日に発生した東日本大震災と福島原発事故のため、2011年度の訪日外国人観光客数は3,4,5月が前年の半数以下、6月以降も前年より30%以上の減少が続いている⁷。

日本人の海外旅行者数は、伝染病の流行やリーマンショック以降の不況の影響もあり、2006年

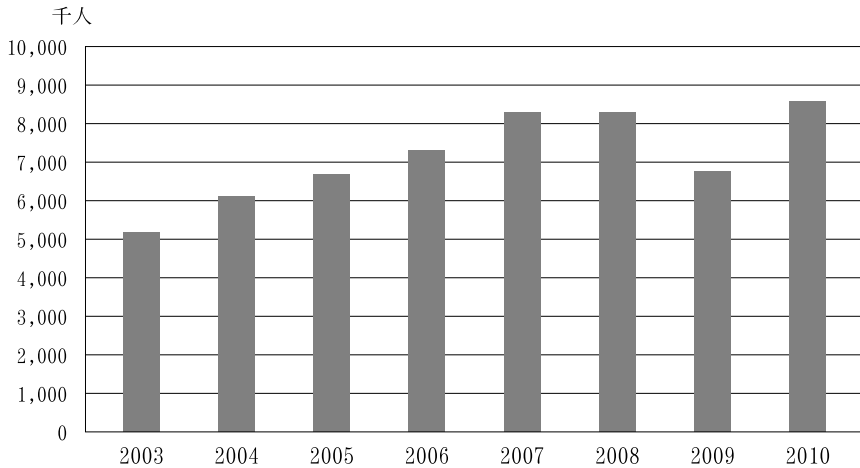


図3．訪日外国人旅行者数の推移（JNTO 調査）

をピークとして、2009年まで減少傾向が続いたが、2010年度から増加に転じ、2010年度には1,663万人以上の日本人が海外旅行をした⁹。しかし、図4のように、日本人入(帰)国者数は2011年の1、2月は前年度を上回ったが、3月以降、前年度を下回る傾向が続き、7月になってようやく前年度より増加した⁹。入(帰)国者数のすべてが海外旅行からの帰国者とは限らないと考えられるが、政府の統計では、帰国者数をその年の海外旅行者数としている。

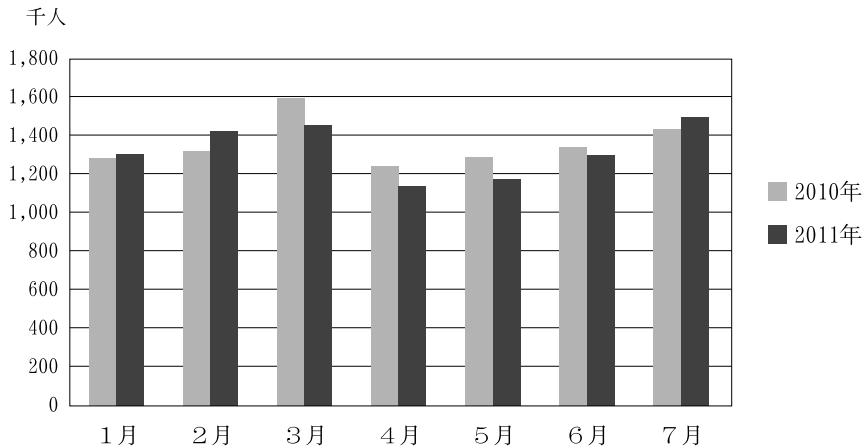


図4．日本人入(帰)国者数の比較（法務省調査）

このように観光事業は天然災害、世界の経済状況、伝染病の流行や戦争などにより、大きな影響を受けるものの、観光庁の「訪日外国人3,000万人へのロードマップ」によれば、2019年には訪日外国人数の目標を2,500万人とし、日本が観光者数においてドイツと並ぶ「観光立国」を目指していることは明白である。

4. 長崎県の観光事情と観光施策

長崎県の場合、2006年10月に「長崎県観光振興条例」を制定し、2007年～2010年の4カ年の「長崎県観光振興基本計画」をし、「観光立県長崎」を目指している。2011年3月からは新しい「観光振興基本計画」を策定し、長崎県観光連盟とともに、国内外からの観光客の誘致を促進している。しかし、実現にはいろいろな困難が伴っている。

図5は2003年から2010年までの長崎県に外国人旅行者の宿泊延べ数の推移を示したものである¹⁰。このグラフが示すように、長崎県の場合、2003年度より延べ宿泊数が増えてきたものの、2008年には既に外国人観光客の数が減少しており、さらに、2009年度には急激に減少し、2004年度の宿泊者数を下回った。これは、リーマンショックによる影響により、韓国、香港、台湾、シンガポールなどからの観光客の激減が大きく響いたと考えられる。しかし、2010年度には韓国、中国、台湾、シンガポールからの観光客が増加し、2006年度程度までには回復しなかったが、2005年度よりも多かった¹¹。ところが、本年3月に発生した東日本大震災と福島原発事故のため、長崎は被災地から1,000km以上も離れているとはいえ、長崎の観光産業が影響を受けていないはずはないと考えられ、今年の外国人宿泊数の減少が予想される。

長崎県の「観光振興基本計画」では、外国人延べ宿泊者数を2025年度には75万人を目標値としている¹²。また、長崎県の観光の活性化のために「観光マイスター」認定制度や、「長崎県地域限定通訳案内士」の資格を設けるなど、公的機関と民間企業と市民が協力しながら、観光事業を促進している。特に第4章の「観光振興基本施策」の中で、「食と歴史・文化などの魅力の向上」の項目の中に「世界遺産登録の推進」が含まれており、「観光振興に人材育成」の項目には、観光事業者へ人材育成、観光団体の強化と人材育成、観光を支える人材育成が掲げられている。「戦略的な情報発信」の項目では、各種メディアを活用した情報発信の充実や、ITなどを活用した情報発信の充実を行うことになっている。また、外国人観光客としては韓国、中国、香港、台湾のほか、シンガポールやタイなどからの旅行者の誘致も目指しており、外国人観光客受入れのために、宿泊施設や観光施設における外国語による表示の整備、洋式トイレの導入、ブロードバンドや外国語放送の整備、従業員の外国語研修などを具体的な施策として挙げている¹³。

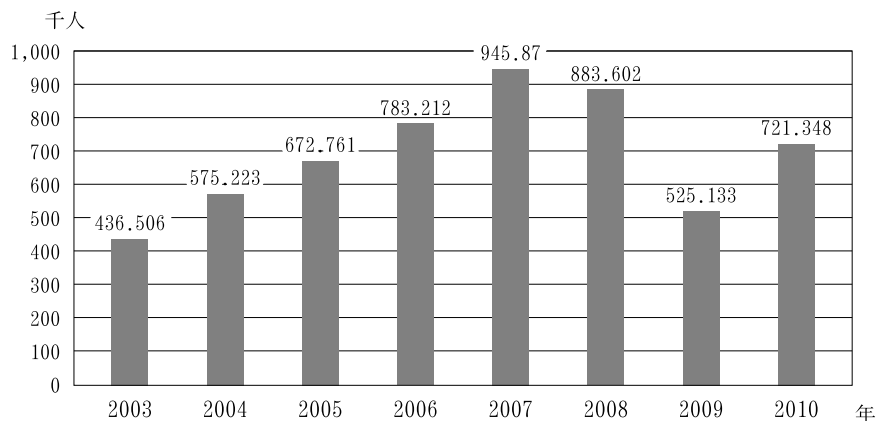


図5. 長崎県の外国人旅行者延べ宿泊数の推移 (長崎県観光連盟調査)

ユネスコ世界遺産委員会の動向，国の観光政策と観光の現状，長崎県の観光産業への取り組みなどを考慮すれば，人材育成機関である長崎県立大学の国際情報学部の学生の教育に，世界遺産観光英語を導入することは，時代の要請ばかりではなく，地域の要請に応える教育内容であると言える。本研究の課題である「世界遺産観光英語のマルチメディアCALL教材開発」により得られる教育成果は，これから社会に出る学生の就業支援としても大変有効であると考えられる。また，難易度の異なる教材を開発すれば，国際交流学科の学生だけではなく，他学科や他大学の学生用の教材としても活用が可能となると考えられ，汎用性の高い教材開発が期待できる。

5．世界遺産についてのアンケート調査

筆者らは2011年6月中旬に(世界遺産に新たに25カ所が登録される以前)長崎県立大学国際情報学部国際交流学科(133名)，情報メディア学科(66名)と看護学科(77名)の学生，合計271名に対し，世界遺産に関する簡単なアンケート調査をした。その結果をここでは報告する。

実際のアンケート用紙は本論文に資料として添付している。質問事項の ， ， は選択肢の中から回答するもの ， ， ， はリストの中から該当するものを選んで回答するもの ， は自由記述の質問である。

5.1 質問 の結果

質問項目 の「ユネスコの世界遺産に登録されているのは，(2010年6月現在)全部で何か所でしょう。」という質問に対する正解は，「3.911か所」であるが，正答率は31.37%であった。この質問の回答が，選択形式とはいえ，正答率が3分の1にも達しなかったというのは，回答者がアンケート調査時点で世界遺産に関する正確な知識をあまり持たないことを意味する。

5.2 質問 の結果

質問項目 の「日本で世界遺産に登録されている世界「自然」遺産は何か所でしょう。」の正解は「4.3か所」であるが，正答率は14.76%と， の質問の正答率の2分の1以下であった。この結果から，学生は国内の世界遺産登録の現状についてはほとんど正確な知識がないことが判明した。

5.3 質問 の結果

質問項目 は国内で世界遺産に登録されている場所で，これまでに訪れたことのある場所を選ばせるものである。世界遺産に登録されている場所は，「姫路城」のように，1カ所単独で登録されている所と，「古都京都の文化財」のように，合わせて17か所の神社，寺などが一緒に1つの世界遺産として登録されている場合の両方がある。質問 のヒントにもなることから，そのような複数の文化財をまとめて登録されている場合でも，個々の神社や寺などの名称を用い，25カ所を選んでリストにし，訪問経験のある場所をすべて選ばせた。そのため，複数カ所を選んだ学生が多い。

回答集計の結果，リストの中で，回答者が一人も訪問した経験がなかった場所はなく，また，結果が所属学科により大きく異なる傾向も見られなかった。回答者が訪問したことのある場所として選んだ上記5位までは，表1のとおりであった。

表1．国内の世界遺産で訪問経験がある場所の上位5ヶ所

1位	清水寺	137名
2位	金閣寺	124名
3位	銀閣寺	69名
4位	東大寺	68名
5位	二条城, 原爆ドーム	66名

上記の1位から5位までは、主として、中、高等学校の修学旅行先としてポピュラーな場所であるため、学生はこれまでに修学旅行で世界遺産を訪問した経験があると考えられる。

5.4 質問の結果

質問は質問と同じ世界遺産登録場所のリストを提示し、回答者が「将来訪れたいと思う場所を5カ所」選ばせるものであった。その結果、回答の上位5カ所は表2のとおりであった。

表2．将来訪れたい世界遺産上位5ヶ所

1位	屋久島	120名
2位	首里城	95名
3位	知床半島	82名
4位	巖島神社	74名
5位	熊野古道	64名

この結果から、回答者は主にこれまでに訪問したことのない場所を選んだと考えられる。たとえば、で「屋久島」を訪問したことがあると回答した学生は14名であったが、での回答数は120名と1位であった。「首里城」に関しては、では51名が訪問したことがあると回答したが、では98名が訪問したい場所として選んでいる。屋久島も首里城も他の地域と比べて長崎からは距離的に近いこともあり、将来的に訪問できる可能性が高いこともあり、選択する学生が多かったと考えられる。また、1位から5位までの地域を見れば、自然遺産(調査時は3カ所)のうち2カ所が含まれており、また、「首里城」「巖島神社」も「熊野古道」も文化遺産ではあるが、その周辺は風光明媚で自然の豊かさ魅力であることから、回答者はそのような観点からも、これらの場所を選択したと考えられる。

5.5 質問の結果

質問は海外の世界遺産の訪問の経験の有無を問うものであった。その結果、訪問したことがあると回答した学生は42名であった。これはこの質問への回答者(205名)の17.71%(無回答者を含めた場合は15.50%)に相当し、予想以上に少なかった。特に、国際交流学科の学生で訪問したことがあると答えたが学生はわずか18名で、全体(無回答者を含む)の13.53%であった。これは回答者のほとんどが1年生であったことも影響していると考えられる。しかし、学科の性質から考えると、国際情報学部の学生はまだ海外の経験が大変少ないと言える。

5.6 質問の結果

質問は、質問で「はい」と回答した学生対象の質問で、世界の18カ所の国と地域のリストの中から、訪問場所を選ばせるものであった。選択肢の19はリスト以外のアジアの訪問地を、また20はアジア以外の訪問地を記述させた。

その結果、世界遺産訪問経験者のうち、25名が「中国」、13名が「韓国」であった。続いて「オーストラリア」が5名、「イギリス・フランス」が4名であった。また、回答者の中には複数の国や地域を訪問したことを示すものもあった。また、南米、アフリカ、南アジアを訪問した経験のある学生はほとんどいなかった。この結果から、本学の学生は海外の世界遺産訪問の経験としては、大半は日本に近い中国や韓国の世界遺産を訪問していることが分かった。

5.7 質問の回答結果

質問は世界遺産で、将来訪問したい国(地域)を回答するもので、質問で使用したものと同じ国や地域のリストを利用して回答させた。選択肢の19と20は、質問の場合と同様に記述による回答もできるようにした。1位から5位までは表3のとおりとなった。

表3．世界遺産で将来訪問したい国(地域)の上位5ヶ所

1位	イギリス・フランス	140名
2位	スペイン・イタリア・ギリシャ	128名
3位	オーストラリア	82名
4位	北欧(ノルウェー・スウェーデンなど)	67名
5位	カナダ	60名

質問の結果、学生はヨーロッパや北米の世界遺産に関心が高いことが伺える。ちなみに「中国」と回答した学生は20名、韓国と回答した学生は38名であったので、アジアの世界遺産への関心はあまり高くない。質問で回答者がいなかった「インド」は37名、「南米(ペルー、ブラジル、アルゼンチンなど)」は38名、「アフリカ」が23名、「中東」が11名であった。学生が記述した場所としては、「ドイツ」と「シンガポール」が各4名であった。

5.8 質問の結果

質問は世界遺産で学生が訪ねてみたい場所を5カ所程度自由記述するものであった。しかし、実例を挙げた方が書きやすいのではないかと考え、例として、ピラミッド、グランドキャニオン、ベルサイユ宮殿を挙げた。1位から5位までは表4のとおりであった。

表4．訪ねてみたい世界遺産の上位5ヶ所

1位	ピラミッド	73名
2位	マチュピチュ	61名
3位	ベルサイユ宮殿	59名
4位	グランドキャニオン	45名
5位	アンコールワット	38名

この結果を見ると、例をあげたため、それに引きずられて回答した学生が多かったのではないかと考えられる。そのため、1位、3位、4位は、例として挙げた場所であった。しかし、2位の「マチュピチュ」と5位の「アンコールワット」は、学生自身が世界遺産としての知識を持っており、訪問したいと考え、記述した場所であった。また、学生の記述した場所の中には「五大湖」や「ナイアガラの滝」など世界遺産に登録されていない場所も見られた。しかし、それらの世界遺産に登録されていない場所を除いても、学生が67か所もの世界遺産を書いており、世界遺産へ関心が高く、メディアなどを通して世界遺産の知識を得ていることを意味している。それは、今日、世界遺産を紹介するテレビ番組¹⁴や世界遺産に関する旅行書¹⁵、または旅行社によるツアーで世界遺産を訪問する企画¹⁶が増えているためであると考えられる。

6. 今後の世界遺産観光英語教材開発研究の方向性

筆者らはすでに2008年度～2010年度の科研費補助研究の成果として、観光英語教材を試作しており、試作教材を用いたブレンド学習の効果についての実験授業を行い、その結果を学会発表や学術論文として公表している。この研究の継続上にこの研究は位置付けられている。そのため、すでに国内で世界遺産に登録されているいくつかの場所を訪問し、資料収集とビデオ撮影、写真撮影をしており、これらの素材を教材作成に利用することが可能である。また、小田開発のWeb利用の学習支援システムであるQAWAIIは、マルチメディアCALL教材の配信、学習結果の学習者と教師へのフィードバックなどの機能に問題がないことを確認している。また、CALL学習とface-to-faceの学習を組み合わせたブレンド学習の効果についても、実証済みである。そのため、この研究では、(1)今回のアンケート調査結果を基に、学生の関心の高い世界遺産の学習教材を開発すること、(2)(1)を実現するために、海外の世界遺産を数か所回り、教材となる資料収集とビデオ、写真撮影を行うこと(3)より効果的なブレンド学習方法を見出すために、開発した教材を使用した実験授業を展開すること、(4)(3)の実験授業により得られた結果により、ブレンド学習の理論を検証すること、(5)半期15回、継続的に学習できるまでの教材数を増やすことなどがあげられる。また、汎用性のある教材にするために、今後、(6)難易度の異なる教材を作成することで、本学の国際交流学科の学生対象の学習教材だけではなく、他学科の学生対象に使用可能な教材や、他大学の学生が使用可能な教材を開発ことを目指す。

注)

1. 研究成果については「On-Line & Off-Line学習によるリテンション(想起・記憶力)の改善効果 - 観光英語教育におけるブレンド学習教材の開発 - 」山内ひさ子, 小田まり子, 河又貴洋『2010年日本社会情報学会(JASI & JSIS)合同研究大会 研究発表論文集』189-192(2010)や「観光英語教材の開発」山内ひさ子, 小田まり子, 河又貴洋『研究紀要』第10号, 長崎県立大学国際情報学部, 305-317(2009)などで発表した。
2. ユネスコ本部ホームページ<http://whc.unesco.org/en/news/776>, 平成23年10月1日現在
3. ユネスコ本部ホームページ<http://whc.unesco.org/en/tentativelists/5696/>, 平成23年10月1日現在
4. 同上, 平成23年10月1日現在
5. 観光庁ホームページ<http://mlit.go.jp/knakourikkoku/index.html>, 平成23年10月1日現在
6. 日本政府観光局(JNTO)調べ, 訪日外客統計データより作表

7. 日本政府観光局ホームページより, http://www.jnto.go.jp/ijp/downloads%2011_total.pdf, 平成23年10月1日現在
8. 法務省調べ, 出入国管理統計統計表, 「出入(帰)国者数」データより作表
9. 平成22年度のJNTO発表の日本人海外旅行者数は, 法務局出入国管理統計の日本人入(帰)国者数と一致しているため, 日本人入(帰)国者数を, 日本人海外旅行者数とみなしている。
10. 長崎旅ネットのホームページの統計データより作表
11. 長崎県観光連盟, 長崎県企画振興部文化観光物産局観光振興課のホームページ, <http://www.nagasaki-tabinet.com/public/plan/> 平成23年10月1日現在
12. 同上. 観光統計, <http://www.nagasaki-tabinet.com/public/statistics>, 平成23年10月1日引用
13. 同上, 長崎県観光振興基本計画, <http://www.nagasaki-tabinet.com/publid/plan/>, 平成23年10月1日現在
14. 例えば, NHKからは「シリーズ世界遺産100」や「世界遺産 時を刻む」などの番組が放映中である。TBSも毎週日曜日に「世界遺産」という番組を放映している。
15. ダイヤモンド・ピック社発行の『地球の歩き方』シリーズ(2年に1度改訂発行)では, その地方の世界遺産登録場所が最初に紹介されている。また, 小学館発行の『21世紀世界遺産の旅』(2007年)は世界851カ所の世界遺産を地図と写真付きで紹介している。本年6月に新たに登録された小笠原と平泉の情報をも含めたものとして『カーサブルータス・トラベル1: 世界遺産』{2011年}をマガジンハウス社が出版している。
16. 例えば, JTBより「パリから世界遺産を訪ねて 7」, 近畿日本ツーリストからは「アメリカンモニュメント! マウントラッシュモアと世界遺産イエローストーン7日間」, プレイガイドツアーからは「世界遺産ハロン湾とアンコール遺跡6日間」のようになツアーのパンフレットが数多く出されている。

参考文献

1. Oda, M., Oda, S., Arai, K., & Yamauchi, H. (2000). "English Pronunciation Practice System for /l/-r/ Using Mouth Movements" *The Journal of Education System and Information*. Vol.16, No.5E, pp.436-444.
2. カーサブルータス(編)(2011)『カーサブルータス・トラベル 世界遺産』マガジンハウス
3. 観光庁「観光立国」<http://mlit.go.jp/knakourikkoku/index.html>, 平成23年10月1日現在
4. 近畿日本ツーリスト(編)『アメリカ大自然周遊・ハネムーンシティ・テーマパーク』2011年
5. Sharma, P, & Barrett, B. (2007). *Blended Learning*. Macmillan.
6. JTBワールドパッケージズ(編)『添乗員同行ヨーロッパ』2011年
7. 小学館(編)(2007)『21世紀世界遺産の旅』小学館
8. 寺内一, 山内ひさ子, 野口ジュディ, 笹島茂(編)(2010)『21世紀のESP』大修館書店
9. 長崎県観光連盟, 長崎県機会振興部文化観光物産局観光振興課「長崎県観光振興気泡計画」<http://www.nagasaki-tabinet.com/publid/plan/>, 平成23年10月1日現在
10. ————「観光統計」<http://www.nagasaki-tabinet.com/public/statistics>, 平成23年10月1日現在
11. 日本政府観光局「訪日外客統計」http://www.jnto.go.jp/ijp/downloads%2011_total.pdf, 平成23年10月1日現在
12. プレイガイドツアー(編)「アンコールワット遺跡 ベトナム」2011年
13. 法務省「出入国管理統計統計表」http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_nyukan.html, 平成23年10月1日現在

山内ひさ子,小田まり子,河又貴洋,Joel HENSLEY: 世界遺産観光英語のe-learningブレンド学習用教材の開発(1)
- 研究の背景と学生へのアンケート調査結果 -

14. Yamauchi, Hisako & Oda Mariko. The Effectiveness of Blended Learning: CALL and Paper-Based Materials. *The JACET Kyushu-Okinawa Chapter Annual Review of English Learning and Teaching No.13*, pp.71-82, 2008年11月
15. 山内ひさ子, 中野秀子, 小田まり子「ESP教授法に基づくCALL教材の共同開発と利用」*LET Kyushu-Okinawa Bulletin* No.8, pp.29-44, 2008年3月
16. 山内ひさ子, 小田まり子, 河又貴洋「観光英語教材の開発」『研究紀要』第10号, 長崎県立大学国際情報学部, pp.305-317, 2009年12月
17. 山内ひさ子, 安浪誠祐, 荒木端夫「ICTとESP」*LET Kyushu/Okinawa Bulletin* No.11, pp.35-52, 2011年3月
18. UNESCO “ World Heritage List ” <http://whc.unesco.org/en/tentativelists/5696/>, 平成23年10月1日現在

【資料】世界遺産に関するアンケート # 1

ユネスコの世界遺産に登録されているのは、(2010年6月現在)全部で何か所でしょう。

1. 2011か所 2. 1511か所 3. 911か所 4. 511か所 5. 111か所

日本で世界遺産に登録されている世界「自然」遺産は何か所でしょう。

1. 14か所 2. 10か所 3. 5か所 4. 3か所 5. 2か所

次の世界遺産でこれまで訪れたことのある場所はどこですか。番号に を付けてください。

- | | | |
|-------------|--------------|-----------|
| 1. 知床半島 | 10. 龍安寺(京都) | 19. 熊野古道 |
| 2. 白神山地 | 11. 天龍寺(京都) | 20. 石見銀山 |
| 3. 日光東照宮 | 12. 平等院(京都) | 21. 姫路城 |
| 4. 白川郷 | 13. 東寺(京都) | 22. 原爆ドーム |
| 5. 金閣寺(京都) | 14. 東大寺(奈良) | 23. 巖島神社 |
| 6. 清水寺(京都) | 15. 薬師寺(奈良) | 24. 屋久島 |
| 7. 二条城(京都) | 16. 唐招提寺(奈良) | 25. 首里城 |
| 8. 銀閣寺(京都) | 17. 春日大社(奈良) | |
| 9. 賀茂神社(京都) | 18. 法隆寺(奈良) | |

次の世界遺産の中で、将来訪れたいと思う場所を5か所選びなさい。

- | | | |
|-------------|--------------|-----------|
| 1. 知床半島 | 10. 龍安寺(京都) | 19. 熊野古道 |
| 2. 白神山地 | 11. 天龍寺(京都) | 20. 石見銀山 |
| 3. 日光東照宮 | 12. 平等院(京都) | 21. 姫路城 |
| 4. 白川郷 | 13. 東寺(京都) | 22. 原爆ドーム |
| 5. 金閣寺(京都) | 14. 東大寺(奈良) | 23. 巖島神社 |
| 6. 清水寺(京都) | 15. 薬師寺(奈良) | 24. 屋久島 |
| 7. 二条城(京都) | 16. 唐招提寺(奈良) | 25. 首里城 |
| 8. 銀閣寺(京都) | 17. 春日大社(奈良) | |
| 9. 賀茂神社(京都) | 18. 法隆寺(奈良) | |

【資料】世界遺産に関するアンケート # 2

海外の世界遺産で訪れたことのある場所がありますか。

1. はい 2. いいえ

の質問ではいと答えた人はどこの国（地域）ですか。

- | | | |
|-----------------------------|-------------|---------------------------|
| 1. 韓国 | 7. インドネシア | 13. 南米（ペルー, ブラジル, アルゼンチン） |
| 2. 中国 | 8. オーストラリア | 14. アフリカ |
| 3. タイ | 9. ニュージーランド | 15. 中東 |
| 4. ベトナム | 10. アメリカ | 16. 北欧（ノルウェー, スウェーデンなど） |
| 5. インド | 11. カナダ | 17. イギリス, フランス |
| 6. カンボジア | 12. メキシコ | 18. スペイン, イタリア, ギリシャ |
| 19. アジアのリスト以外の国（国名を書いてください） | | |

20. アジア以外でリストにない国（国名を書いてください）

世界遺産で訪れたい国（地域）はどこですか。

- | | | |
|-----------------------------|-------------|---------------------------|
| 1. 韓国 | 7. インドネシア | 13. 南米（ペルー, ブラジル, アルゼンチン） |
| 2. 中国 | 8. オーストラリア | 14. アフリカ |
| 3. タイ | 9. ニュージーランド | 15. 中東 |
| 4. ベトナム | 10. アメリカ | 16. 北欧（ノルウェー, スウェーデンなど） |
| 5. インド | 11. カナダ | 17. イギリス, フランス |
| 6. カンボジア | 12. メキシコ | 18. スペイン, イタリア, ギリシャ |
| 19. アジアのリスト以外の国（国名を書いてください） | | |

20. アジア以外でリストにない国（国名を書いてください）

世界遺産で特に行ってみたいところ, または見てみたい所があったら書いてください。

（例：ピラミッド, グランドキャニオン, ベルサイユ宮殿など）

1.
2.
3.
4.
5.